

みなと 物語



港区でいちばん広い公園 八幡屋公園のひみつ

八幡屋公園は、大正12年(1923年)に極東選手権競技大会が大阪で行われるのをきっかけに、市立運動場として誕生しました。27,000席のスタンドを有する陸上競技場や日本初の50メートルプール、野球場やテニスコートなど充実した設備を誇っていました。太平洋戦争の後、昭和31年(1956年)からは国際見本市の会場としても使用され、国内外から多くの人々が訪れました。昭和47年(1972年)には、子どもたちが楽しく交通ルールを学べるように考えられた交通公園が完成し、あわせて「市電保存館」が設置されました。



極東選手権競技大会
(大阪市立図書館所蔵)



国際見本市会場

昭和60年(1985年)に国際見本市会場が南港に移り、その跡地の公園整備が進められました。そして平成8年(1996年)、大阪プールと中央体育館を併設し、広々とした芝生広場や充実した遊具のある緑いっぱいの総合公園として生まれ変わりました。時代はめぐるといわれますが、約70年の時を越えて身近なスポーツから国際レベルのスポーツ大会が開催される場所として皆さんに親しまれています。

ところで皆さん、ご存じでしたか？

八幡屋公園の地下には、災害時に備えて飲料水の貯水槽や仮設トイレが埋設されています。八幡屋公園は遊び・スポーツ・安心を備えた珍しい公園なのです。



区民の憩いの場 八幡屋公園